

## 令和3年度入学式 学長式辞

愛媛大学長 仁科 弘重

10年くらい前までは、桜は、入学式の頃に満開となっていました。最近では満開の時期が早くなり、新たな生命力を感じる若葉も加わった状態で、入学生を迎えるようになりました。

この佳き日に、学部学生1901名、大学院学生426名、合わせて2327名の皆さんを、愛媛大学の新入生としてお迎えすることができました。

「ご入学、おめでとうございます。」愛媛大学を代表し、皆さんを歓迎いたします。

新型コロナウイルスによる感染症拡大の中、例年のように、入学生の皆さん、ご家族ならびに関係の皆さん方が一堂に会してご入学をお祝いすることは叶わず、3月の卒業式、修了式と同様に、各学部、各研究科の入学生の代表の方のみ、ここ南加記念ホールに来ていただき、その他の方にはライブ配信をするという方法を採らせていただきました。まさに、断腸の思いの決断ではありますが、これも、皆さん方の安全を考えての判断でございます。ご理解のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

また、例年、多数のご臨席をいただいておりますご来賓の方々も、本年は、愛媛大学校友会の高橋祐二会長に、代表としてご臨席いただいております。厚く、御礼申し上げます。

皆さんが入学される愛媛大学は、文系から理系まで、7学部と6研究科を擁し、1万人近い学生が学ぶ、四国最大の総合大学であり、「輝く個性で、地域を動かす、世界とつながる大学を創造する」ことを理念に、「地域を牽引し、グローバルな視野で社会に貢献する教育・研究・社会活動を展開する」という「ビジョン」を掲げ、さまざまな取組みを行っています。

さて、ここで、現在の私たちが置かれている基本的状況を再確認してみたいと思います。

まず、一つ目は、地球温暖化。これは、より広く「地球環境問題」と言った方がよいかもしれませんが、いずれにしても、人類の生存を脅かすまでの存在とな

っており、中長期的に最大の問題と思います。

これにも関係すると思いますが、特に日本においては、2011年3月の東日本大震災以降、毎年のように豪雨災害や局地的地震が発生し、そして、現在は、新型コロナウイルスによる感染症が、第1波、第2波、第3波、第4波、そして、変異株の出現と、より厳しい状況になりつつあります。

さらに、四国地方では、南海トラフ地震も予想されており、まさに、次から次へと、私たちの生存、平穏な暮らしを脅かす災害が起きつつあります。

二つ目の基本的状況は、よく「人生100年時代」と言われるように、長寿化です。私たちの寿命が長くなること自体は大変喜ばしいことですが、結果として、私たちの働き方も変革を求められるようになっていきます。

このような状況の中で、と言うか、このような状況に対して、若い世代の皆さん方には、次のことを考えて欲しいと思います。

まず、東日本大震災の時に、「想定外」という言葉が使われました。東日本大震災以降も、豪雨災害やコロナ禍など。まさに、想定外の案件が続いています。しかし、私たちは、これらを「想定外」として受け止めてはいけないと思います。本当の理由は、「私たちの想像力の低下」だと思います。人類は、その誕生の頃には、他（ほか）の動物に食べられる可能性もあったために、周囲の変化に神経を集中していたはずですが、その後の人類の文明の進化によって、通常は、私たちは、それほど危険を感じずに過ごすことができるようになっていきます。このこと自体は大変よいことで、人類の進化の賜物だと思います。しかし、そのために、周囲から襲ってくる危険に対して、若干「鈍感」になっていることは、否定できないと思います。

「地震が起これば、津波が来る」。このことを、瞬時に想像する必要があります。現在のコロナ禍でも、東京の数百人規模の感染者確認を、自分の隣で起こっていることであると理解し、適切な対応をする必要があると考える、「想像力」が必要です。

新入生の皆さんには、これから、70年にも及ぶ、長い人生が待っています。この間、皆さんが無事人生を終えるまで、災害から身を守って欲しいと思います。そのためには、「想定外」と言わなくて済むように、危険に対する「想像力」を養っていただくことが必要だと思います。どのような災害が起こっても、「想像

の範囲内だった」と言えるようになっていただきたいと思います。

そのためには、日頃から、世界で起こっている災害の状況を学び、少なくとも知識として身に付けておく必要があると思います。

次に、「人生100年時代」、長寿命化についてです。

大学、大学院を卒業、修了された後は、皆さんは「就職」されます。「就職」と言っても、特に日本では、実質的に「就社」、つまり「ある会社に入り、その会社とともに人生を送る」という意味になっています。しかし、これからは、この、高度成長期の働き方モデルは通用せず、新たな働き方が求められると思います。

社会の変化が速くなる以上、社会全体で考えても、ある産業、ある会社がずっと輝き続けることはなくなり、プレイヤーの交代が起こります。皆さん個人で考えても、もしかしたら、転職する人も、また、二つ以上の仕事を持つ人も出てくると思います。

このような状況では、これまで以上に、自分の生き方や働き方を自身で設計、実行できる、「自立した個人として生きていく能力」を身に付けることが必要だと思います。

よく、私たちが身に付けなければならない能力として、「自立した個人として生きていく能力」と、「組織や社会の一員として生きていく能力」が挙げられますが、この2つの能力は、ある面では相反しています。私の意見ですが、これからは、「自立した個人として生きていく能力」の方が、より重要になってくるのではないのでしょうか。

最後に、新型コロナウイルスによる感染症拡大に伴って、愛媛大学でも、昨年度は、遠隔授業を中心とした時期、対面授業と遠隔授業を併用した時期など、コロナ禍への対応に追われた1年でした。本来、対面で行うべき授業までも遠隔で開講したり、教職員の側も苦渋の選択の連続でした。残念ながら、本年度も、同じような状況がある程度は続くことを覚悟しなければなりません。

しかし、コロナ禍を「災い」「不本意」という観点だけで理解しないでいただきたいと思います。よく、コロナ禍は、「これまでとはまったく異なる社会を引き連れてきたのではなく、10年、20年後に来るべき社会を、あっという間に私たちの目の前に出現させた」と言われます。テレワーク、在宅勤務、遠隔授業など、この1年で一般的になった言葉は、多数あります。私たちは、価値観や働

き方も変えざるを得なくなり、そのために、強いストレスを感じています。

しかし、デジタル社会の進展に伴って、「いずれ、そうなるはずだった」社会が目の前に現れただけと割り切り、むしろ、「従来の価値観から解き放され、自由な発想で新たなことにチャレンジすることが許される状況にある」と考えて欲しいと思います。時代の変化を感じ取り、自らの感性と思考力で判断し、自分の意見を遠慮なく発言し、自分のポテンシャルを高めてください。

コロナ禍という未曾有の困難を、20歳前後という、人生でもっとも多感な時期に過ごすことになる皆さん方が、今後の新たな価値観、社会システムの構築に大きな貢献をされることを期待します。

そのためにも、皆さん方が、愛媛大学のさまざまな制度や取組みを活用し、愛媛大学での学びを充実したものとしていただくよう希望し、式辞の結びといたします。